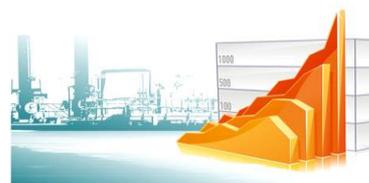


ぎふ経済レポート



令和2年3月分
岐阜県商工労働部

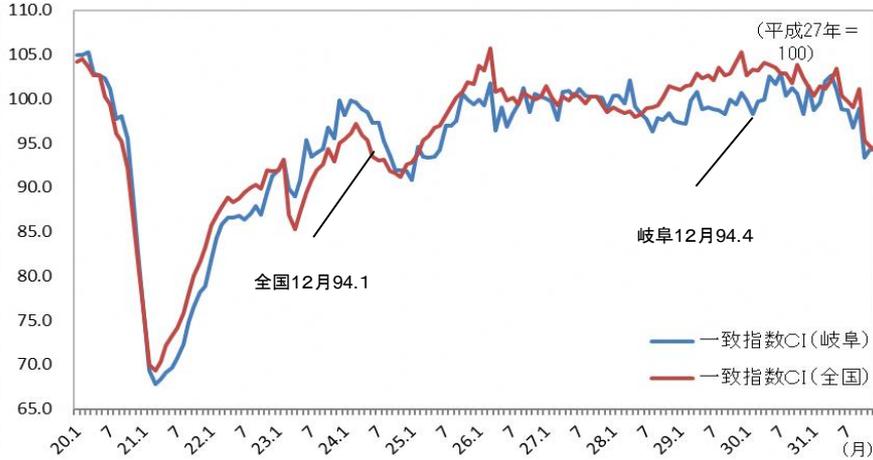
※企業等へのヒアリングは 3月25日～27日を中心に実施し、4月22日に作成。

景気動向

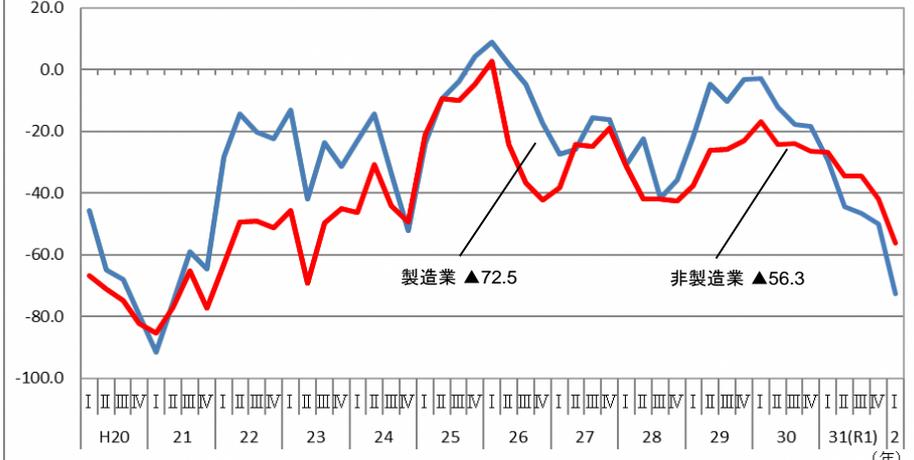
- 12月の景気動向指数(一致指数)は、94.4で前月比0.2ポイント上昇した。
- 2月の県内中小企業の景況感は、▲62で前月比▲15ポイントと低下した。

- 1-3月期の景況DIは、製造業で▲22.5ポイント、非製造業で▲14.4ポイントと低下。
- 同売上高DIは、製造業で▲19.0ポイント、非製造業で▲14.4ポイントと低下。

岐阜県及び全国の景気動向指数(一致指数)の推移



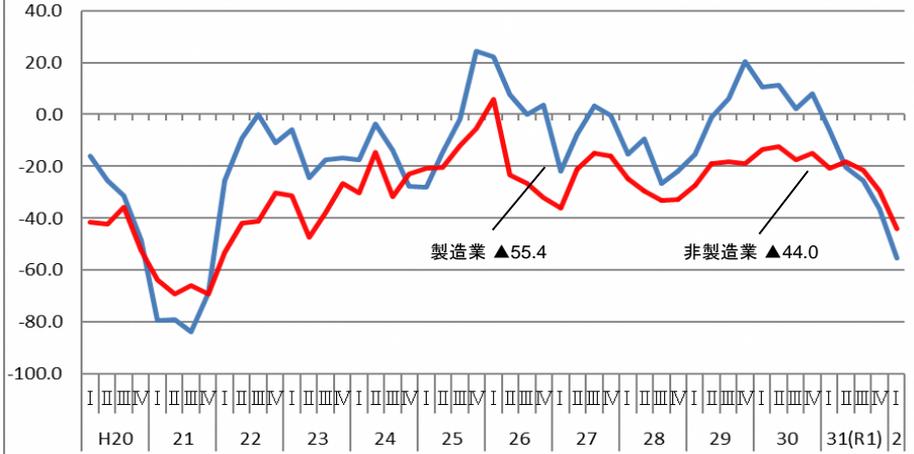
県内企業の景況DI(増加-減少)の推移



岐阜県及び全国の中小企業の前年同月比景況感DI(好転-悪化)の推移



県内企業の売上高DI(増加-減少)の推移

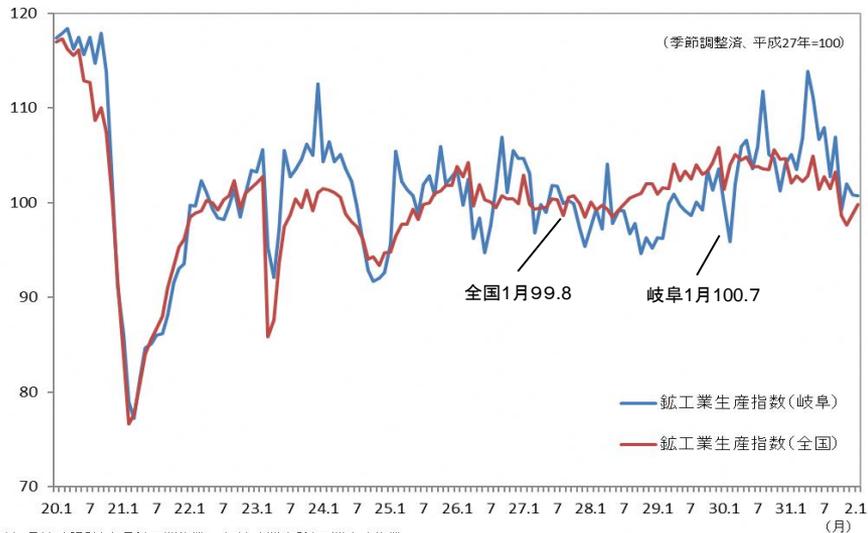


製造業

- 1月の鉱工業生産指数(季節調整済)は、100.7で前月比▲0.1%と低下した。
- 金属製品が上昇したが、電気機械と輸送機械が大幅に低下した。

- 1月の主な産業の指数は、金属製品で前月比16.4%上昇したものの、電気機械で同▲11.1%、輸送機器で同▲10.9%など、低下する産業が目立った。

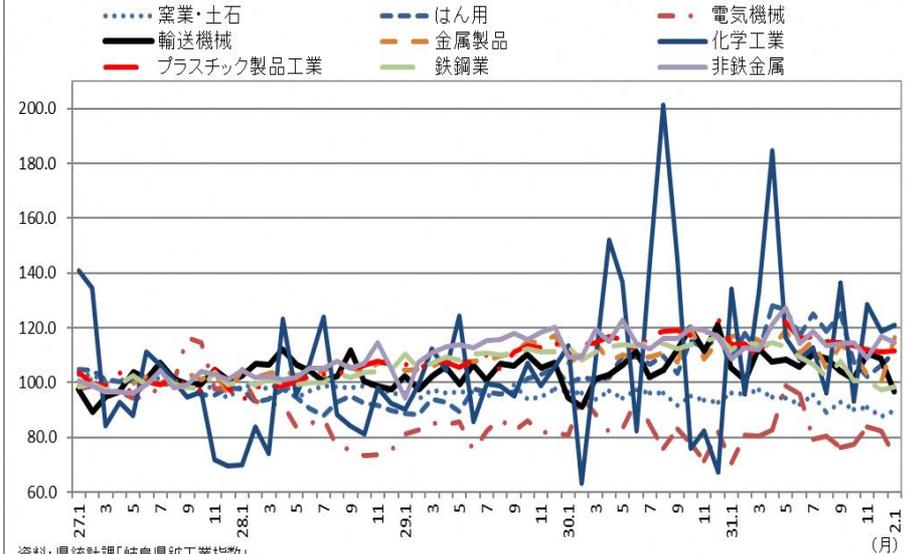
鉱工業生産指数の推移



資料: 県統計課「岐阜県鉱工業指数」、経済産業省「鉱工業生産指数」

主な産業の鉱工業生産指数

(季節調整済、平成22年=100)



資料: 県統計課「岐阜県鉱工業指数」

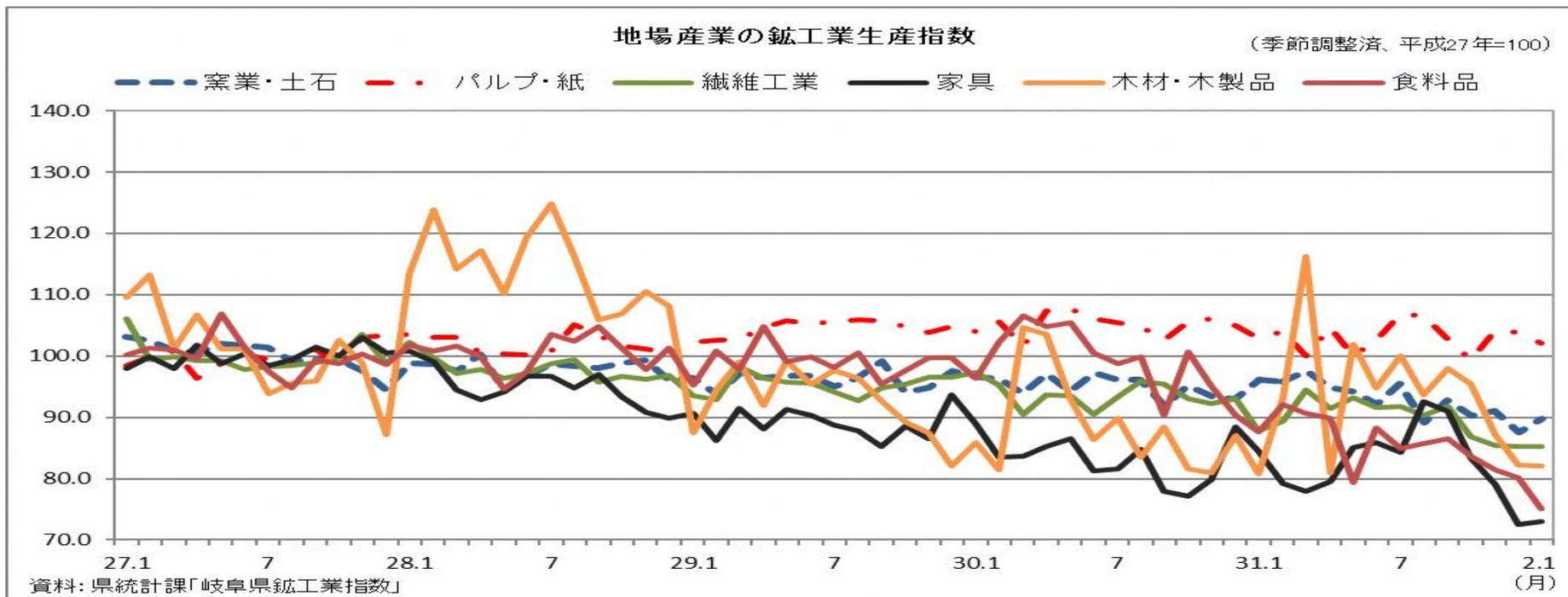
(※新型コロナウイルス関連はP6にも掲載)

現場の動き

- ◆航空機関連で量産の受注を獲得し、試作加工を完了し、量産待ちの状態である。(輸送用機械)
- ◆現在の売上は米中間の通商問題、中東情勢の流動化など緊張が増す厳しい環境に加え、長引く半導体業界の生産調整、欧州・中国を中心とする自動車生産の低迷など、依然として不透明である。(輸送用機械)
- ◆今年度は自社製品の開発や他事業進出も企画し、幅広い事業展開を検討していく予定。(輸送用機械)
- ◆周辺に良い土地があれば工場の増設を検討したい。(電子機械)
- ◆売上高は伸びているものの、設備投資と人件費の高騰により営業利益は伸び悩んでいる。(プラスチック製品)

製造業-2

○1月の地場産業(刃物を除く)の鉱工業生産指数は、窯業・土石で前月比2.6%、家具で同0.6%と上昇したものの、食料品で同▲6.4%、パルプ・紙で同▲1.6%、木材・木製品で同▲0.4%、と低下した。



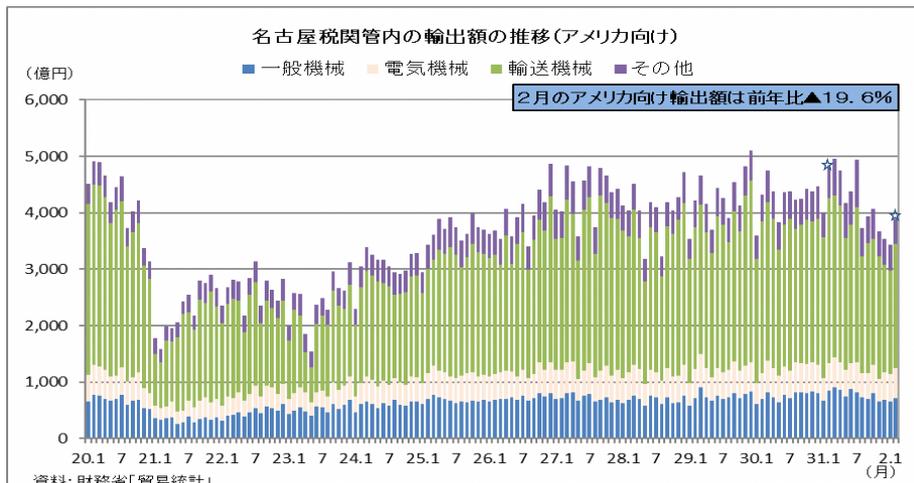
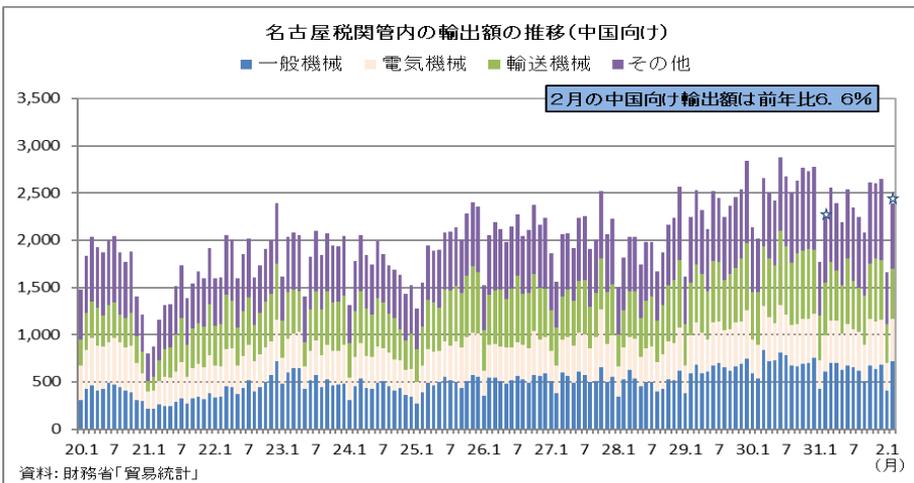
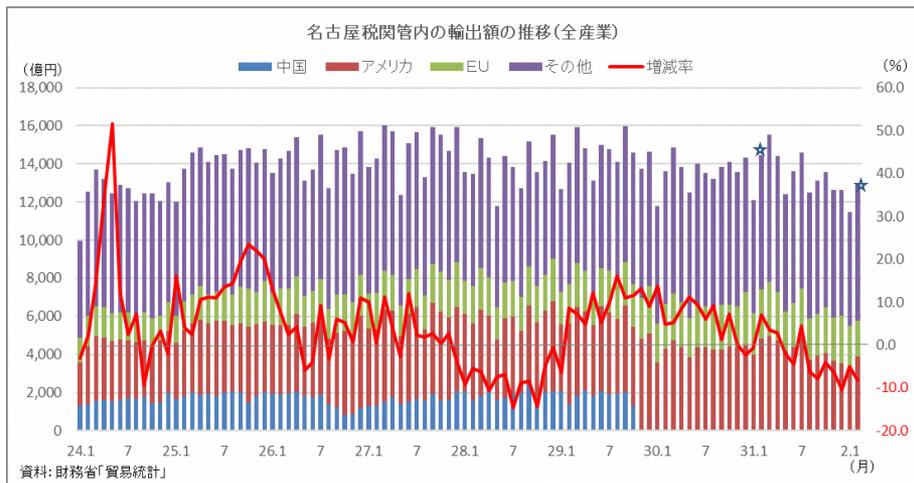
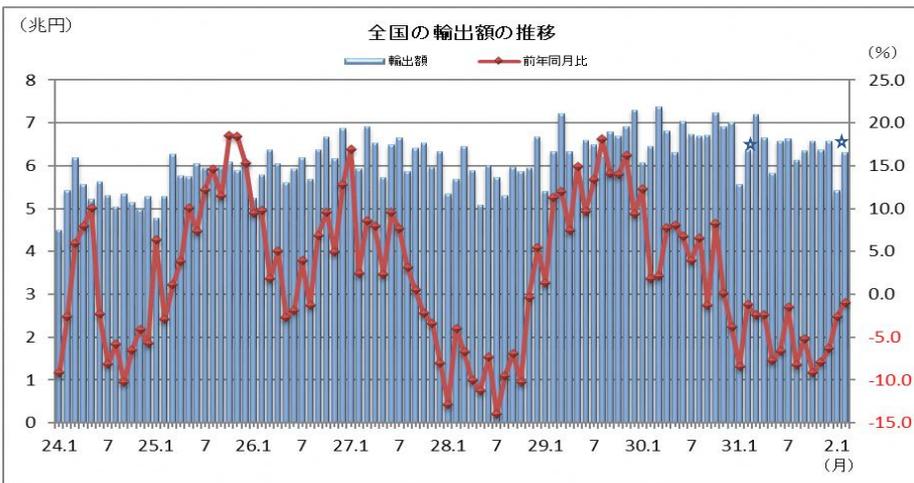
(※新型コロナウイルス関連はP6にも掲載)

現場の動き

- ◆消費増税後、売上の落ち込みが見られたなか、コロナウイルスが拍車をかけ、大きく売上減少。(アパレル)
- ◆4月からの原料価格値上げを見込み、2~3月で増産した事業者もあり、コロナウイルスの影響が深刻。(陶磁器)
- ◆海外への輸出は好調だったが、コロナウイルスの影響で、ヨーロッパへの輸出がストップしてしまった。(刃物)
- ◆競合が大手になってきており、品質向上が必要となっており、今期はかなりの設備投資をした。(紙)
- ◆通販事業が主流であり、コロナウイルスの売上への影響はない。(食品)
- ◆生活必需品ではなく高価格帯の商品のため、土産物に限らずスーパー等での販売も減少している。(食品)

輸 出(名古屋税関管内)

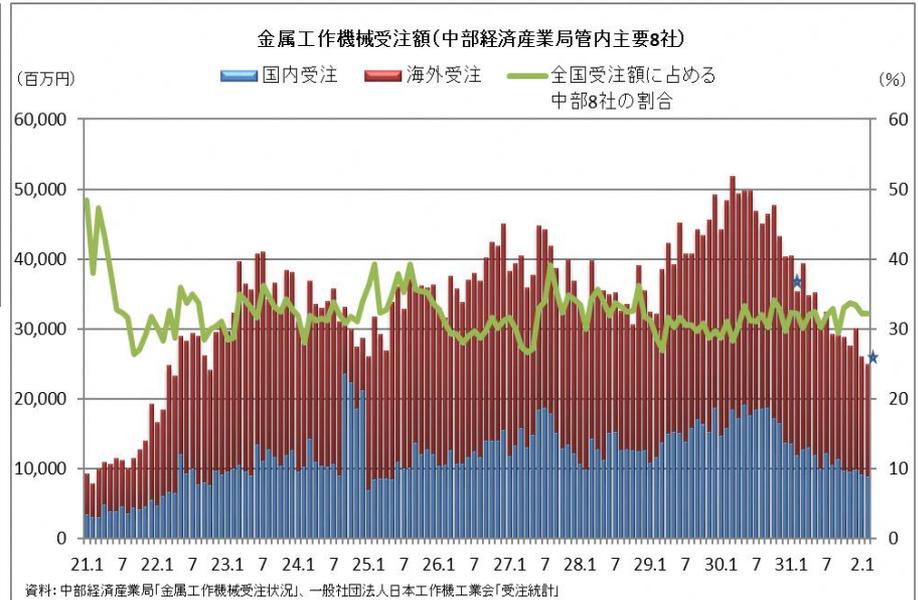
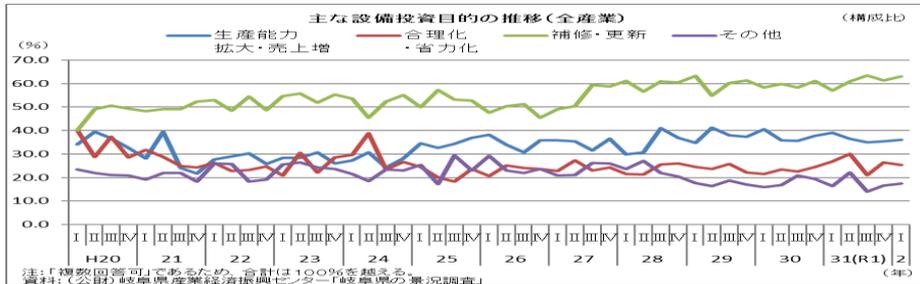
- 2月の輸出額(全国)は、6兆3,213億円の前年同月比▲1.0%と15ヶ月連続で減少となった。
- 2月の輸出額(名古屋税関内)は、1兆5,344億円で前年同月比▲8.2%と減少し、7か月連続で前年同月を下回った。
- 中国向けは、全体で前年同月比6.6%増加し、12か月ぶりに前年を上回った。
- その内、輸送機械で前年同月比▲5.8%減少したが、一般機械や電気機械で大幅に増加した。
- アメリカ向けは、全体で▲19.6%減少し、7か月連続で前年を下回った。



設備投資

○1-3月期の設備投資実績は前期比▲4.6ポイントと低下、設備投資意欲DIは同▲11.0ポイントと低下。目的別では、「補修・更新」で1.7ポイント、「生産能力拡大・売上増」で0.6ポイント上昇し、「合理化・省力化」で▲1.1ポイントと低下した。

○2月の金属工作機械受注額は、全体では前年同月比▲29.4%と16ヶ月連続で前年を下回った。内訳は国内受注では多くの工業向けが不調で、同▲24.8%と15ヶ月連続で前年を下回り、海外向けも同▲31.7%と16ヶ月連続で前年を下回った。



現場の動き

(※新型コロナウイルス関連はP6にも掲載)

- ◆工場等、現場のIoT導入について、エネルギー(電力量)の使用状況がリアルタイムで管理(監視)出来るシステムを導入し、省エネ及びコストダウンへの取組みを開始した。(輸送用機械)
- ◆8月に納入される予定の設備の納品時期が未定となり、かなり遅れることが予想される。また、現状の経済情勢では思い切った設備投資ができない状況となっている。(金属製品)
- ◆昨今の経済情勢により、設備投資を控えるといった報道が出ているため、影響を注視していく。(金融)
- ◆受注側の企業から、発注先が設備投資の計画を見直す予定があるという話を聞く。(金融)

製造業関係における新型コロナウイルスの影響について

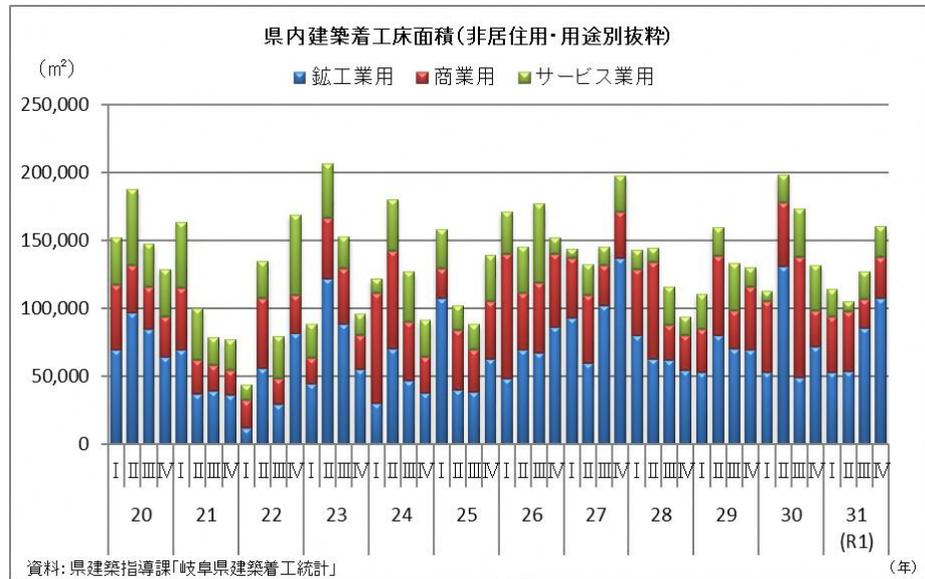
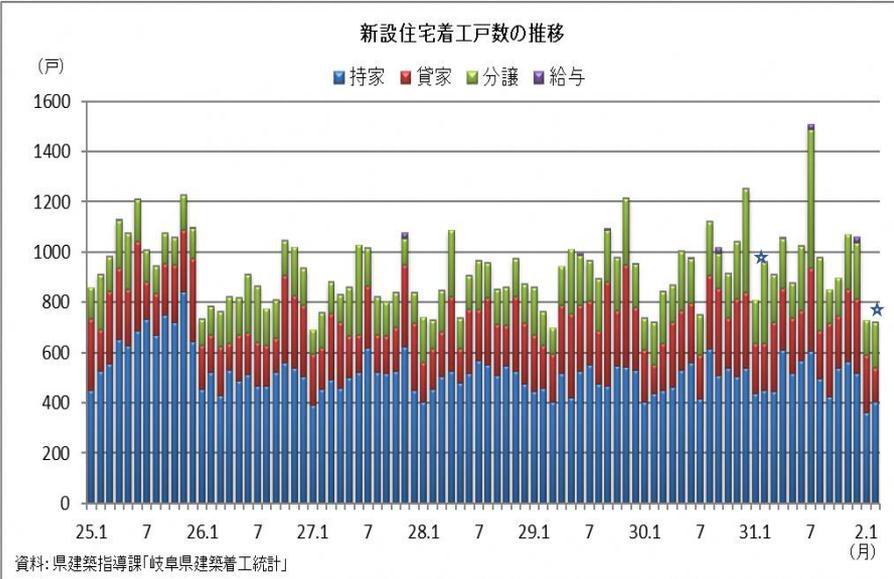
- ◆米国、フランスの生産会社は、稼働を停止している状況である。(輸送用機械)
- ◆売上は、前月比で増加を見込んでいる。当社が新型コロナウイルスの影響で操業停止になった際に備えて、客先が在庫の積み増しをしていると予想。(輸送用機械)
- ◆さらなる新型コロナウイルスの感染拡大があれば、月当たり30～70%の売上減を懸念する一方で、収束後の生産に備えて、ある程度在庫を確保しておく必要もある。(輸送用機械)
- ◆2月以降、中国からの原材料等が入ってこない状況であったが、3月初旬から入ってきている。国内自動車メーカーの工場休止の影響は現状ではないものの、長引けば悪影響が懸念される。(輸送用機械)
- ◆中国から物が入らないため、工場停止の段階にシフトしており、影響は更に大きくなる見込み。(金属機械)
- ◆海外からの受注が多いため、すでに受注しているものも中止又は延期となっている。(電気機械)
- ◆輸入に頼っている資材が届かなければ、工場の操業ができなくなる恐れがある。(生産用機械)
- ◆中国からの部品調達が遅れ、納品に間に合わない状況である。(生産用機械)
- ◆自動車メーカーをはじめ、そのサプライヤーの生産調整が発生しており、今後は受注量の急激な減少が予想される。(生産用機械)
- ◆顧客との打ち合わせ等が出来ない状況が多発しており、今後の売上に影響が出てくると予想される。(プラスチック製品)
- ◆消費税増税による影響で下降傾向だった業況に、新型コロナウイルスの影響がさらに追い打ちをかけている。3月に予定していたイベントも中止になり、来岐するバイヤーが減少している。(アパレル)
- ◆外出控え等により小売店等での販売額が減少しており、新型コロナウイルスの収束までは、この状況が続くのではないかと危惧している。(アパレル)
- ◆観光客の減少により販売店や酒造メーカー等で、商品の返品や注文の停止が発生している。また、飲食店、ホテル等の業績悪化により、器の入替需要が大幅に減少しており、出荷が鈍っている。(陶磁器)
- ◆輸出がストップしてしまった状況のため、在庫だけがどんどん増えていく。(刃物)
- ◆メディカル関係はマスクの原紙などで300%増である。(紙)
- ◆体験ショップの予約が全て取り消しになるなど、3月は大きな打撃を受けている。(紙)
- ◆原料が中国から輸入できない状況が続いており、現状は在庫でまかなっているが、今後輸入が再開された際に価格上昇が懸念される。(食品)
- ◆観光客が減少し、土産物需要が減っている。(食品)
- ◆2020年に向けて準備をしていた部分があったが、オリンピックも延期になり行き先が不透明。4月～7月に大きく影響がでると思われるため、今から対策を考えていく。(木工)

住宅・建築投資

○2月の住宅着工戸数は、前年同月比▲25.3%と3ヶ月連続で前年同月を下回った。

○分譲で▲44.5%、貸家で同▲28.6%、持家で同▲10.2%と減少し、全体で大幅に減少した。

○R1年10－12月期の建築着工床面積は、サービス業用で前年同期比▲31.6%と減少したものの、鉱工業用で同50.6%、商業用で同11.7%増加したことから全体としては同21.8%と3期ぶりに増加した。

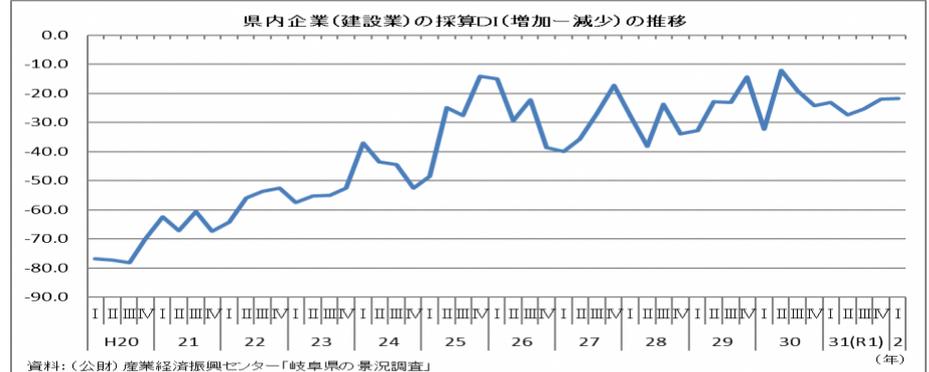
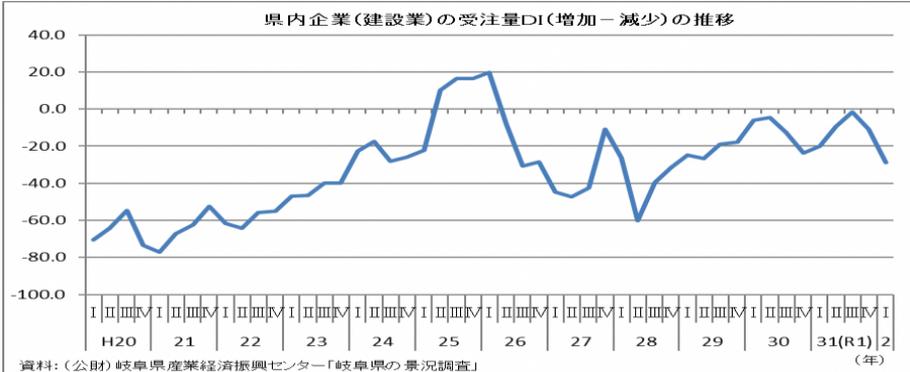
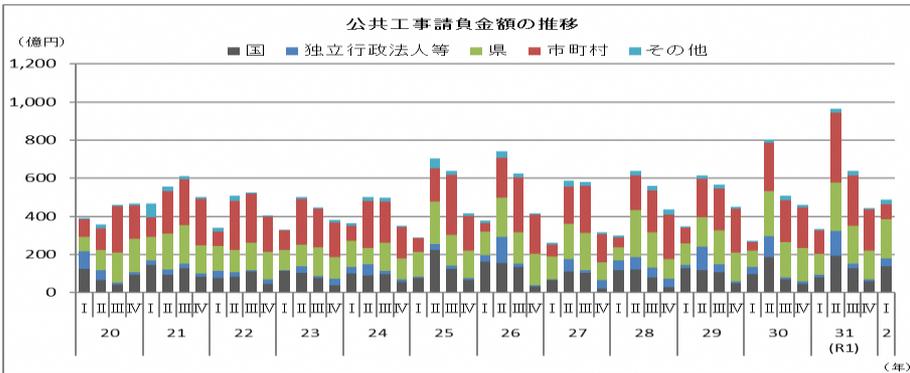


現場の動き

- ◆東日本大震災のときより状況は悪いのではないかと、今回は先行き(需要)が見えない。(木材加工)
- ◆感染リスクを下げるため、営業部門の一部を他市へ移した。さらにCAD部門などの一部職員は自宅勤務としている。(住宅建設)
- ◆工場が止まると影響が非常に大きいことから、工場の従業員以外は原則出入り禁止としている。(住宅建設)
- ◆例年であれば5月連休明け頃から住宅建築が増えてくるが、今年は先行き不透明な状況であり、夏場の受注も減るかもしれない。(流通組合)
- ◆住宅建築関連業者で普段から安い製品を扱っている業者は、中国製品がストップすると苦しくなると思われる。例えば、家の備品(トイレなど)が中国製だと物が入ってこないため、家の引渡しにも影響する。(流通組合等)

公共工事

- 1-3月期の発注者別の公共工事請負金額は、独立行政法人等で前年同月比211.4%、県で同87.0%、国で同71.9%増加するなど、全体で同46.2%増加した。
- 県内建設業の1-3月期の受注量DIは前期比▲18.1ポイント、同採算DIは同比▲0.2ポイント、と低下。



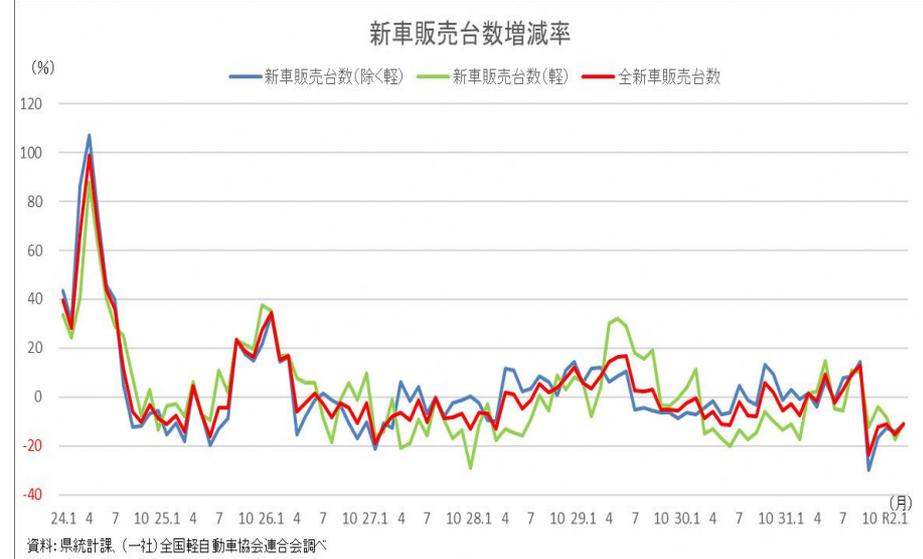
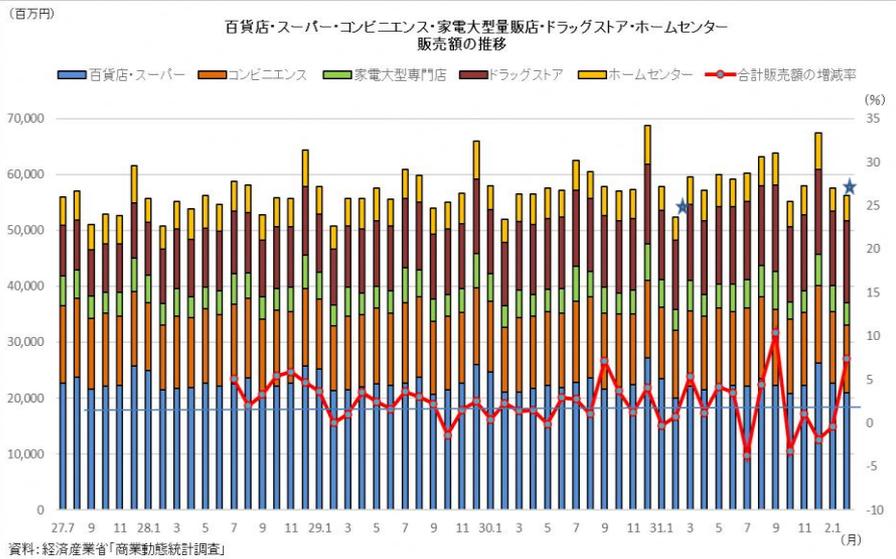
現場の動き

- ◆令和元年度は、現場以外の完全週休2日制の導入や、技能者の賃金体系の完全月給制への変更を実施した。
- ◆コロナウイルスの感染者が出た場合は、その現場や部署が2週間停止となり、工事期間は伸ばさざるを得ない。現場のみならず、取引先、下請でも感染者が発生する可能性があり、状況に応じ、適宜対応せざるを得ない。
- ◆感染者発生時、感染ルートや接触者を特定する調査により業務遅延が予想されるため、打合せ記録簿等、接触者を明確にするよう指導済みである。

個人消費(流通・小売)

○2月はドラッグストアで前年同月比19.2%、ホームセンターで同8.9%、大型家電量販店で同4.9%、百貨店・スーパーで同4.1%、コンビニで同1.1%増加し、全体で同7.4%増加した。

○2月の新車販売台数(除く軽)は、前年同月比▲11.2%と5か月連続で減少し、軽自動車は、同▲10.8%と5か月連続で減少した。
○合算では同▲11.0%と、5か月連続で前年同月を下回った。

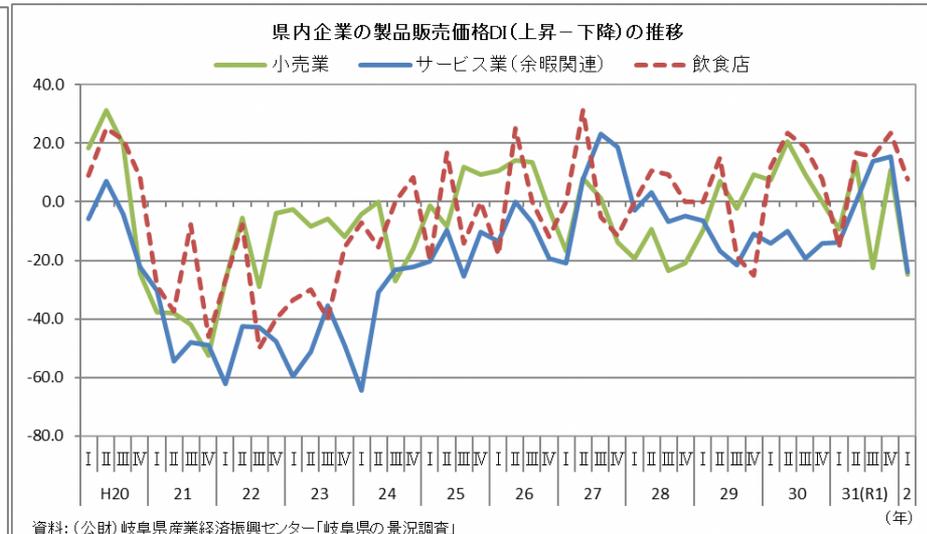
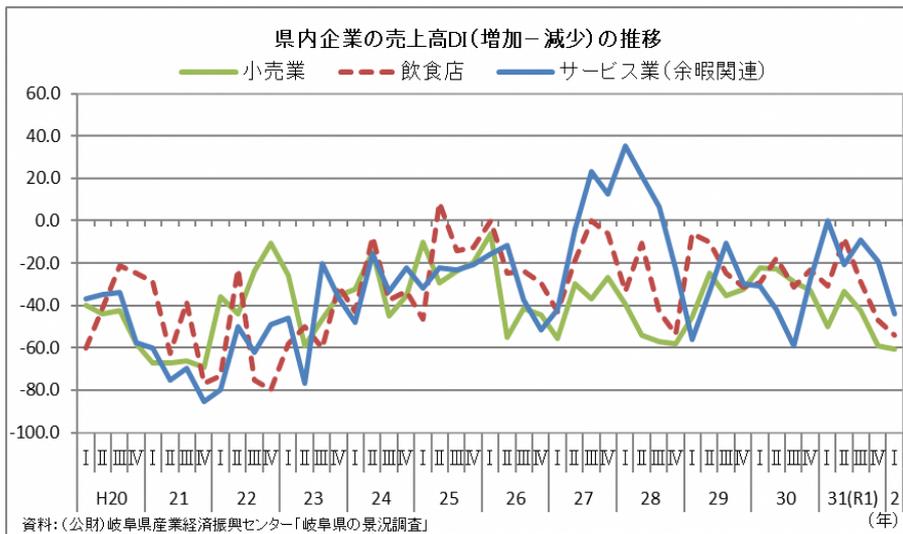


現場の動き

- ◆ 専門店では、特に映画館と旅行会社の売上げが減少している。(岐阜市内大型商業施設)
- ◆ 食品の売上は堅調だが、衣料品の落ち込みが激しい。マスク、アルコール消毒液は入荷しにくい状況が続いている。いつ感染が収束するのか分からず、今後の見通しも立てづらい。(大垣市内大型商業施設)
- ◆ 一人当たりの客単価が伸びている。買いだめや普段外食をする方が食料品を買うようになってきている影響と考えられるが、買いだめ客で客単価が伸びているのであれば、反動は必ずくる。(岐阜市内スーパー)
- ◆ 新型コロナウイルスの影響は出てきており、来客数、売上ともに伸びない。(岐阜市内家電量販店)
- ◆ 卒業式や部活などの学校行事やマラソン大会、ゴルフコンペの中止に伴い、関連商品の売上額が減少している。(岐阜市内スポーツ用品店)

個人消費(流通・小売)－2

- 1－3月期の売上高DIは、サービス(余暇関連)では前期比▲24.7ポイント、飲食店で同▲6.7ポイント、小売業で同▲1.9ポイントと低下した。
- 同じく販売価格DIは、サービス業(余暇関連)で前期比▲39.4ポイント、小売業で同▲35.8ポイント、飲食店で同▲15.9ポイントと低下した。



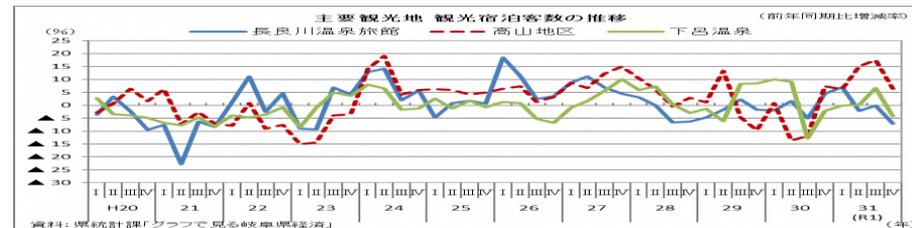
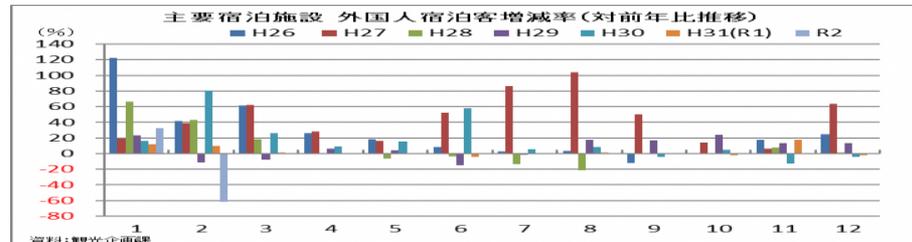
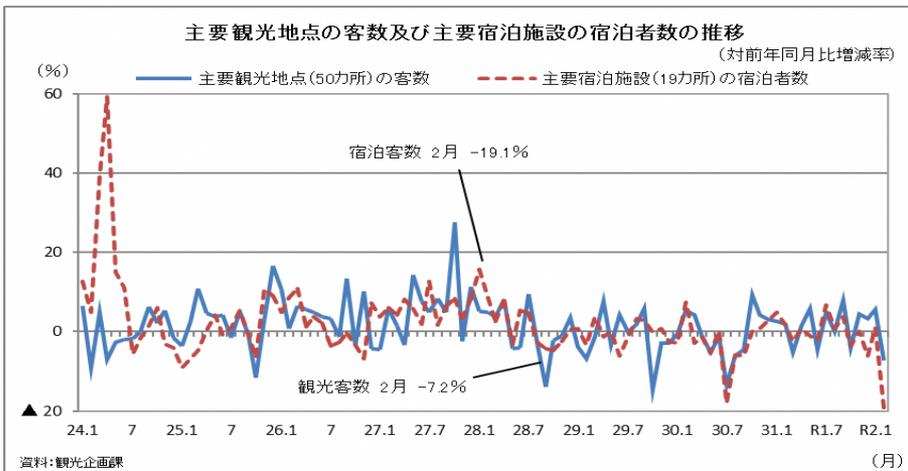
現場の動き

- ◆コロナウイルスの影響で来街者数が5割以上減少してしまい、3月に入り外国人も全く見かけなくなった。イベントも中止となり、活気もなくなってしまった。(柳ヶ瀬商店街)
- ◆品切れ中のマスク、手指消毒関連の問い合わせばかりで売上につながらない。
- ◆学校休校決定から客数、売上ともに落ちた。3月上旬より営業時間を1時間短縮している。(以上、大垣市商店街)
- ◆送別会や各種イベントが中止になり、居酒屋などの飲食店の来客数が激減した。酒類の卸部門でかなりのダメージがある。
- ◆4月の多治見陶器祭りも中止となり、例年見込んでいた売上もなくなってしまった。
- ◆商店街の飲食店は地元の方々に来ていただいてなんとか営業している。(以上、多治見市商店街)
- ◆外国人観光客、来店数ともに減少しており、店頭の上売が減少している。(高山市商店街)

観光

- 主要観光地における2月の観光客数は、前年同月比▲7.2%減少し、4か月ぶりに前年同月を下回った。
- 主要宿泊施設の宿泊者数は、前年同月比▲19.1%と前年同月を大きく下回った。

- 2月の主要観光施設における外国人宿泊者数は、前年同月比▲61.4%減少し、2か月ぶりに前年同月を下回った。
- 10～12月期の主要観光地の観光宿泊者数は、前年同期比で長良川と下呂で減少した。

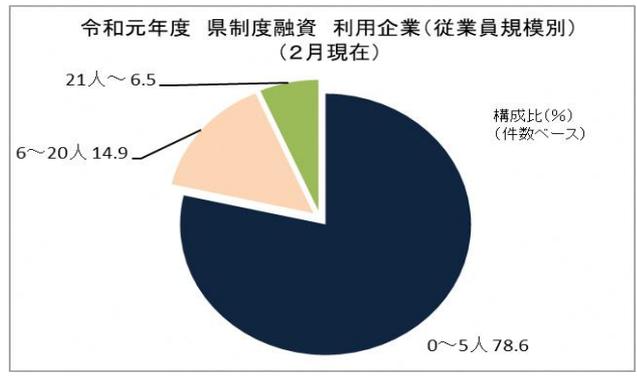
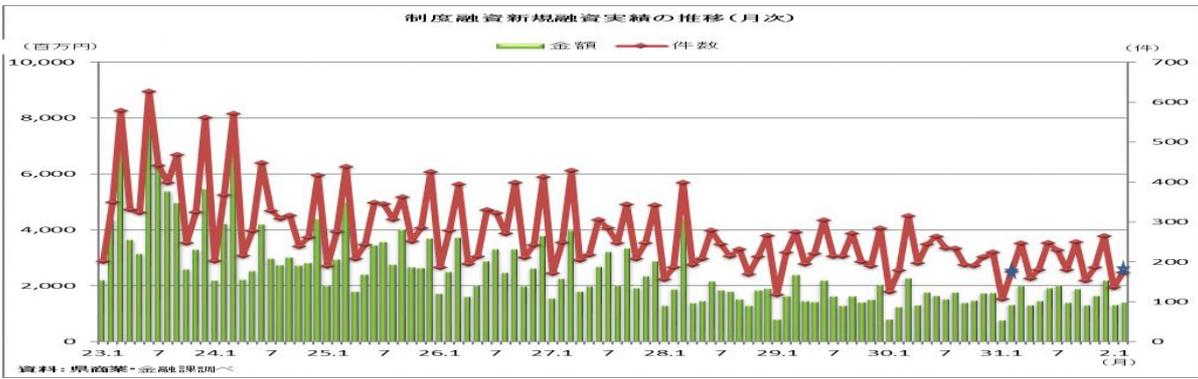
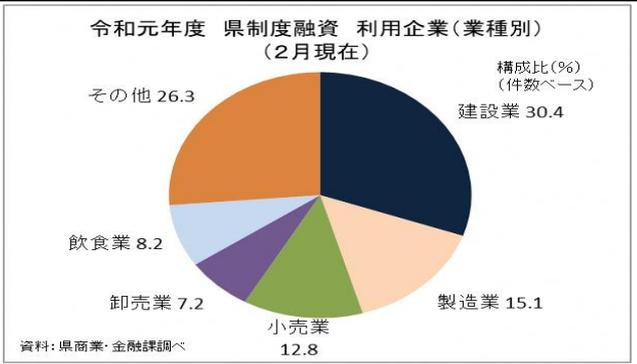
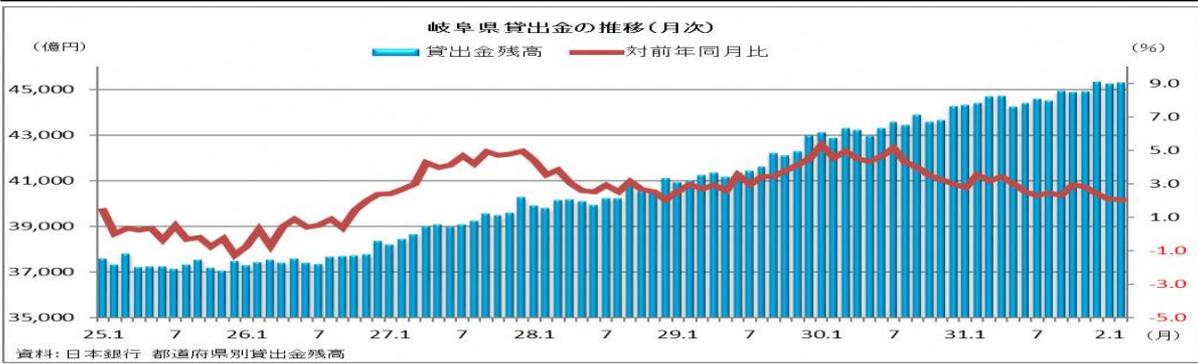


現場の動き

- ◆インバウンドが激減している。
(岐阜市内、大垣市内、郡上市内、多治見市内、恵那市内、高山市内、奥飛驒の宿泊施設)
- ◆大河ドラマを当てにしていたが、全てキャンセルになった。(岐阜市内の宿泊施設)
- ◆スポーツ団体やビジネスの宿泊も全てキャンセルになった。(岐阜市内、大垣市内の宿泊施設)
- ◆イベントの中止による宿泊のキャンセルが続き、回復の兆しが見えない。(岐阜市内の宿泊施設)
- ◆宿泊料金が大幅に下落している。(岐阜市内の宿泊施設)
- ◆雇用の調整が必要と考えているが、どこまで抑えるか。落ち着いた後の雇用状況も見えてこない。
(下呂市内の宿泊施設)

資金繰り

○2月の岐阜県貸出金残高は、4兆5,330億円で前年同月比2.0%とプラス基調が続く。
 ○2月の制度融資実績は、金額が1,433百万円で前年同月比7.7%と3か月連続で増加した。件数は174件で同▲1.1%と3か月ぶりに減少した。
 ○従業員別では、5人以下の事業所が全体の78.6%を占めている。



現場の動き

- ◆ 今後市が利子補給を行う話も出てきているため、件数が増えていくことが予想される。
- ◆ 3月に入り、融資の相談が増えてきている。先行き不透明なため、どのくらい資金繰りが厳しくなるのか見通せない事業者もいる。
- ◆ 新型コロナウイルス感染症の影響は先月と比べて具体的な話が多くなってきており、飲食や製造業に限らず、全業種で影響が出てきており、多くは運転資金の融資である。(以上、金融)

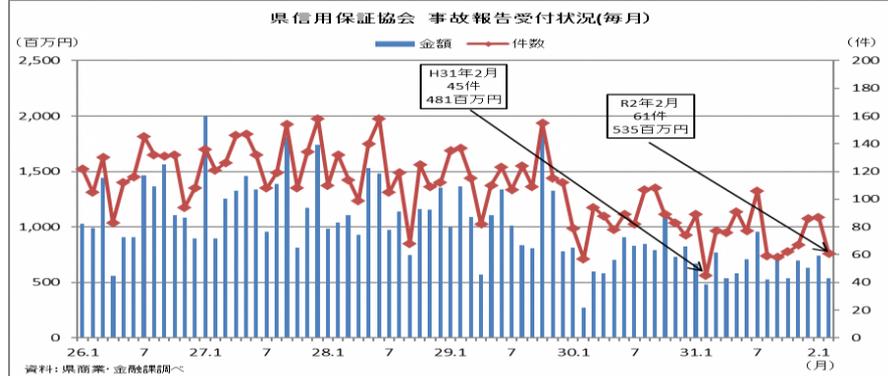
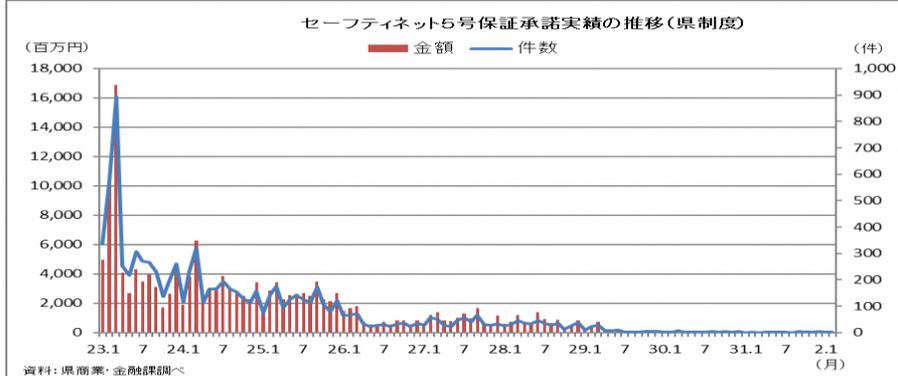
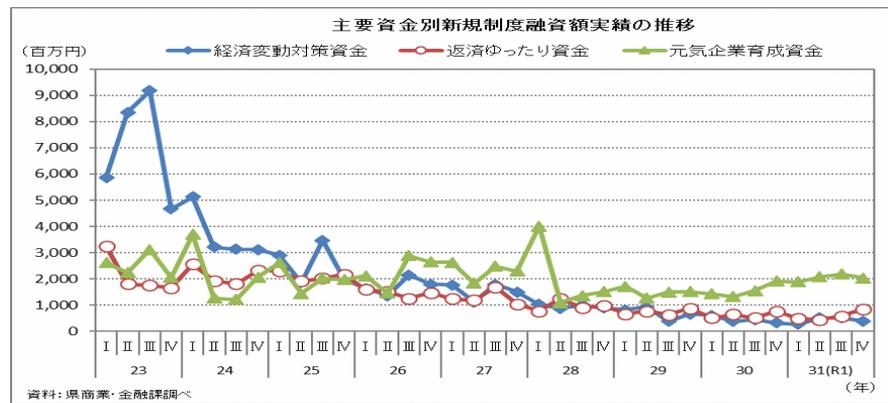
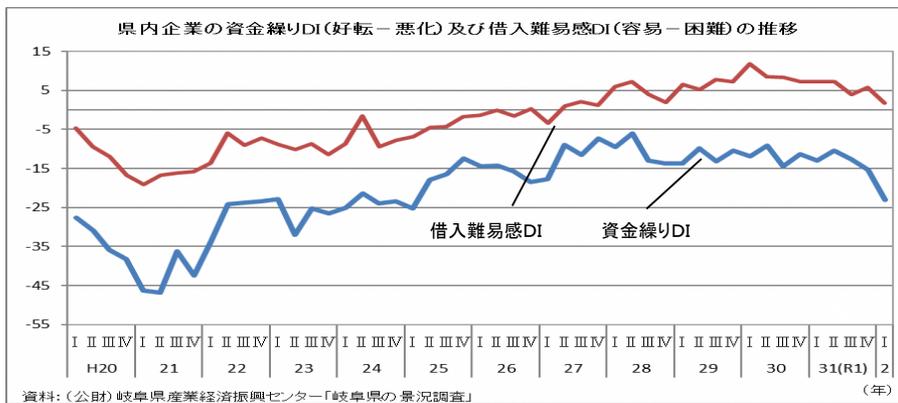
資金繰り-2

○R2年1-3月期の資金繰りDIは▲23.0で、前期比▲7.7ポイントと低下。同借入難易感DIは1.8で、同▲3.9ポイントと低下。

○R1年10-12月期の主要資金別新規制度融資実績は、経済変動対策資金で前年同期比19.0%と3ヶ月連続で増加、返済ゆったり資金で同10.1%と2ヶ月連続で増加、元気企業育成資金で同6.6%と7ヶ月連続で増加となった。

○2月のセーフティネット5号保証承諾実績は、件数が3件で前年同月2件増加、金額は63百万円で同215.0%と4か月連続で増加した。

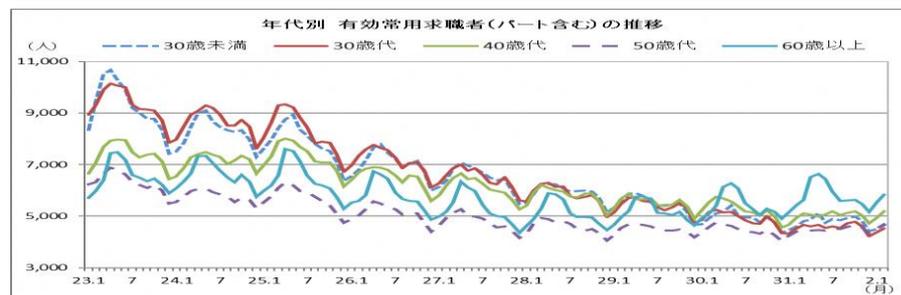
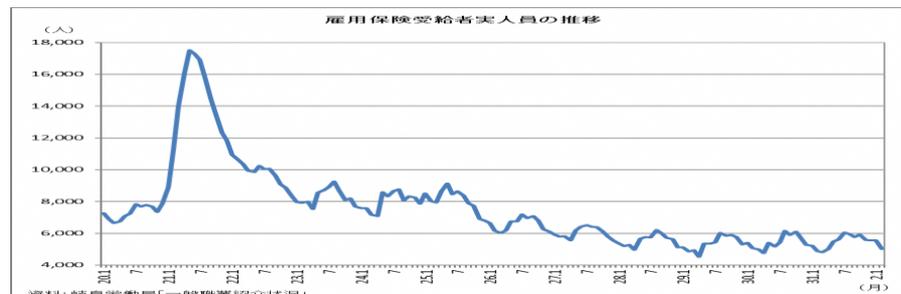
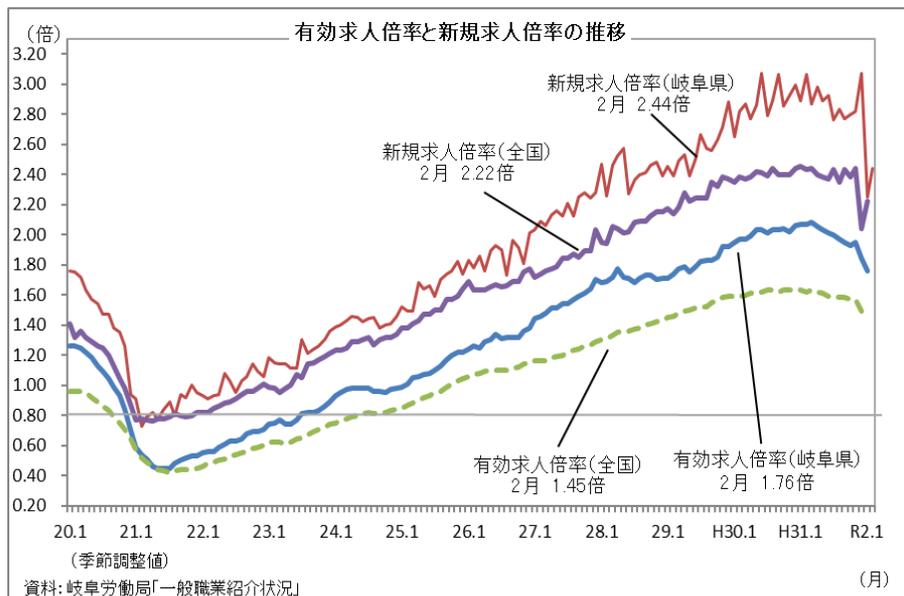
○2月の事故報告(保証協会付融資3か月以上延滞)状況は、件数は61件で前年同月比35.6%と増加。金額は535百万円で同11.2%と2か月連続で増加。



雇用

- 2月の有効求人倍率は1.76倍と前月比▲0.08ポイント低下。全国で4番目の水準。
- 2月の新規求人倍率は2.44倍と前月比0.19ポイント上昇した。

- 2月の雇用保険受給者人員は、前月比▲9.5%と低下した。
- 年代別有効常用求職者は、全ての年代で前年同月比増加した。



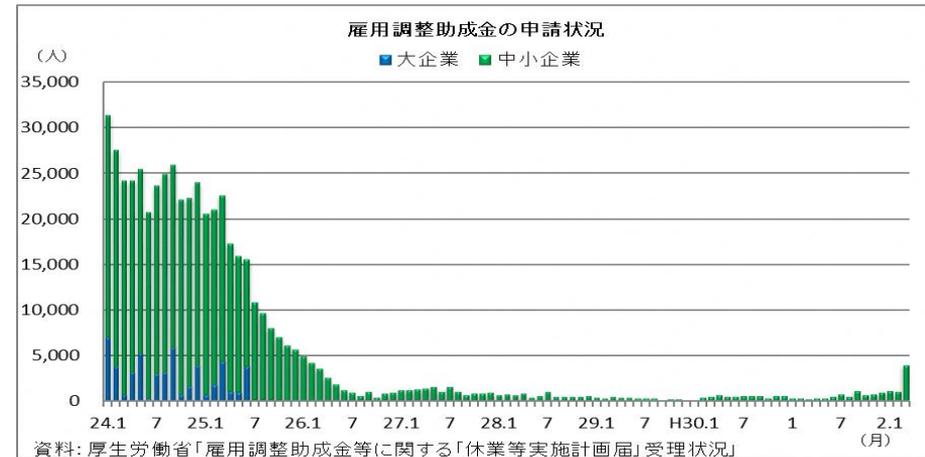
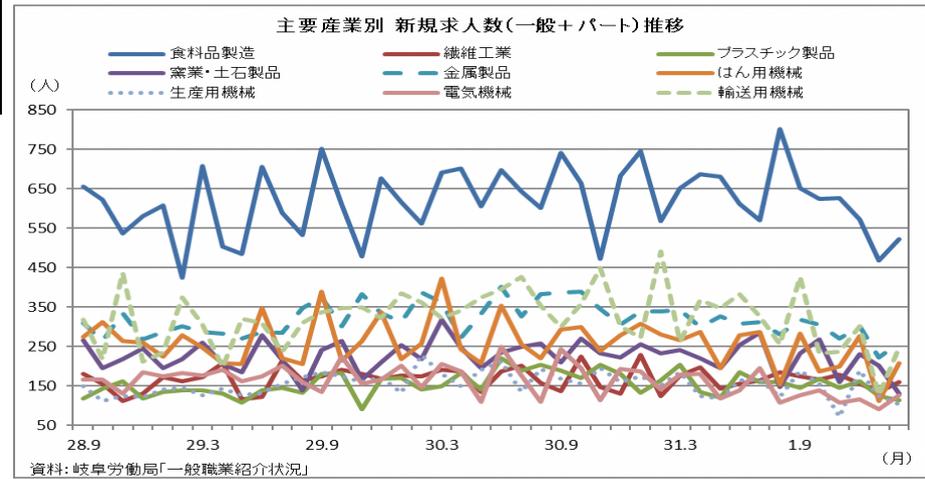
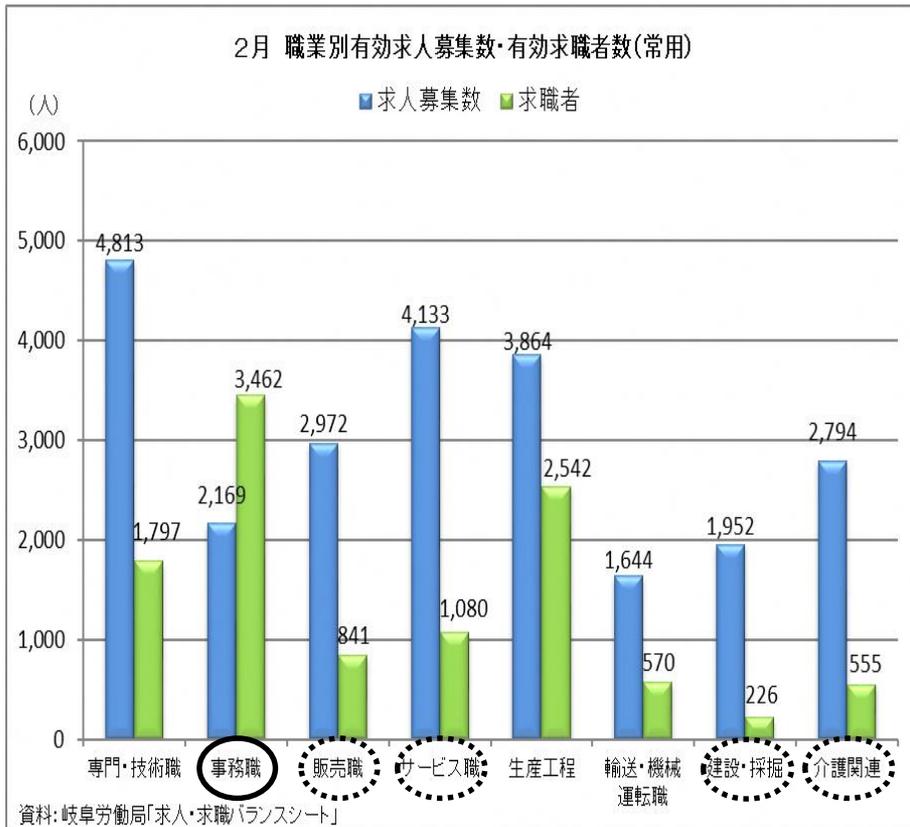
現場の動き

- ◆21年卒の採用活動は、学内企業展や会社説明会が3月より中止、延期が続いている(輸送用機械)
- ◆新型コロナウイルスの影響で、良質な人材が転職市場に流出してくる可能性があると考えている。(輸送用機械)
- ◆正社員の雇用を守るため雇用調整では派遣社員(110名のうち70%が外国人)の契約期間で調整している。(輸送用機械)
- ◆2月の売上がゼロで従業員全員を休業させたメーカーが、雇用調整助成金の申請を検討していると聞いた。(陶磁器)
- ◆業種を問わず引き続き人手不足が継続しており、人手不足による倒産、廃業の動向を注視している。(金融)

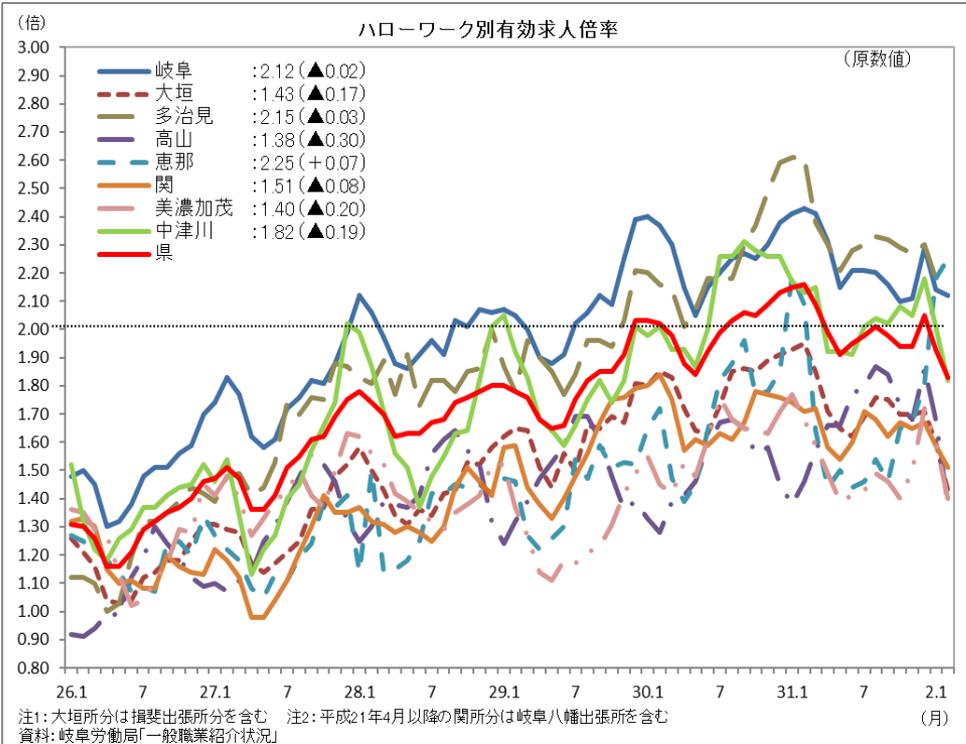
雇 用(職業別)

- 多くの分野において人手不足の状態。建設・採掘の求人倍率は8.6倍、介護関連は5.0倍となる等、顕著。
- サービス産業においても、販売職3.5倍、サービス職3.8倍など人手不足は深刻。
- 一方で、事務職の求人倍率は0.6倍に留まり、求職者のニーズと、求人側のニーズのミスマッチが続いている。

- 2月の主要産業新規求人数は、繊維工業で前年同月比29.0%増加したものの、輸送用機械で同▲49.8%、窯業・土石製品で同▲44.0%など、多くの産業で減少した。



雇用(地域別)



○2月のハローワーク別有効求人倍率は、岐阜、多治見、恵那が2倍超にて推移した。一方、前月比では、恵那以外で減少した。

現場の動き(前月比)

<ハローワーク岐阜>

- ◆求人者数は減少、求職者数は横ばい。
- ◆雇用保険受給者数は増加。

<ハローワーク大垣>

- ◆求人者数、求職者ともに減少。
- ◆雇用保険受給者数は減少。

<ハローワーク多治見>

- ◆求人者数は増加、求職者は減少。
- ◆雇用保険受給者数は減少。

<ハローワーク高山>

- ◆求人者数は減少、求職者はやや減少。
- ◆雇用保険受給者数は横ばい。

<ハローワーク恵那>

- ◆求人者数、求職者ともに増加。
- ◆雇用保険受給者数は増加。

<ハローワーク関>

- ◆求人者数は増加、求職者は横ばい。
- ◆雇用保険受給者数は増加。

<ハローワーク美濃加茂>

- ◆求人者数は増加、求職者は減少。
- ◆雇用保険受給者数は減少。

<ハローワーク中津川>

- ◆求人者数は増加、求職者は減少。
- ◆雇用保険受給者数は横ばい。

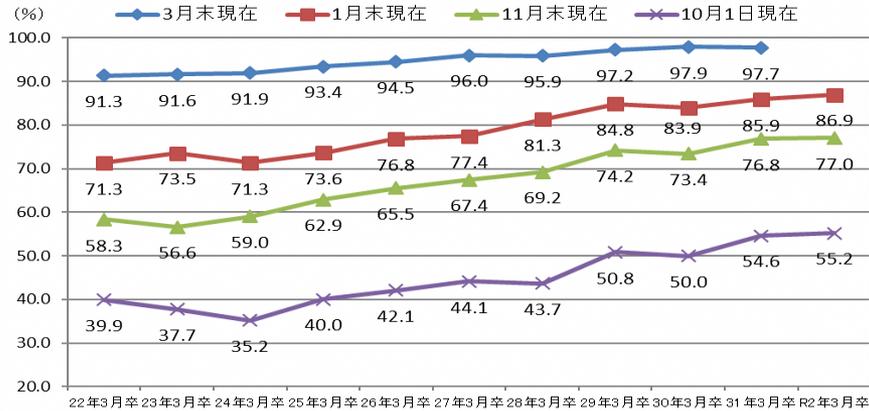
<窓口の様子>※前月比

- ◆関、中津川で増加。

雇用(大学・短大新卒者の就職)

- 岐阜県の令和2年1月末時点の大学・短大卒業者(令和2年3月卒業)の就職内定率は、86.9%であり、前年同時点と比べ1.0ポイント上昇した。
- 全国の令和2年2月1日現在の大学・短大卒業者(令和2年3月卒業)内定率は92.3%であり、前年同時点と比べ0.4ポイント上昇した。

新規卒業者(大学・短大等)の就職内定率の推移<岐阜県>



資料: 岐阜労働局「新規学校卒業者(大学・短大等)の就職状況」

新規卒業者(大学)の就職内定率の推移<全国>



資料: 厚生労働省「大学等卒業予定者の就職状況調査」

現場の動き

<大学へのヒアリング>

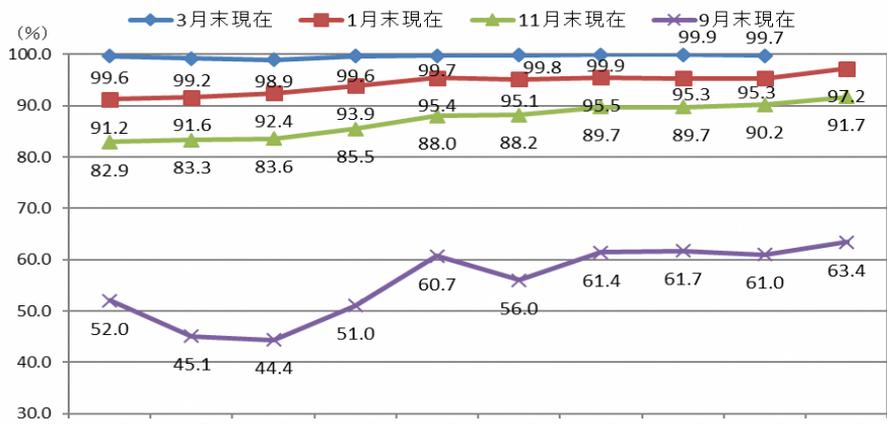
- ◆新型コロナウイルスの影響で、就職フェアや学内企業説明会などのイベントが中止となっている。
- ◆学生からは情報が得られないことに対する不安な声を多く聞く。
- ◆WEBで説明会や面接を行う企業が増えているため、学校の教室などを学生に貸し出している。
- ◆学生には、企業研究をする時間が増え、チャンスになると話している。(以上、岐阜県内大学)
- ◆21卒の内定の情報もちらほら入ってきている。新型コロナウイルスの影響で不安に感じている学生を対象に、3月後半の2週間、相談会を設け、学生の相談を受け付けている。
- ◆就職イベントの中止により情報が入らない、景気動向が不安などの学生の声を多く聞く。ポツポツではあるが、内定をもらったという報告も入る。
- ◆企業の説明会や就職イベントも行われていない現状で、動けていない学生も多くいるのではないかとかなり危惧している。(以上、愛知県内大学)

雇用(高校新卒者の就職)

○岐阜県の令和2年1月末時点の高校卒業者(令和2年3月卒業)就職内定率は97.2%であり、前年同時点と比べ1.9ポイント上昇した。

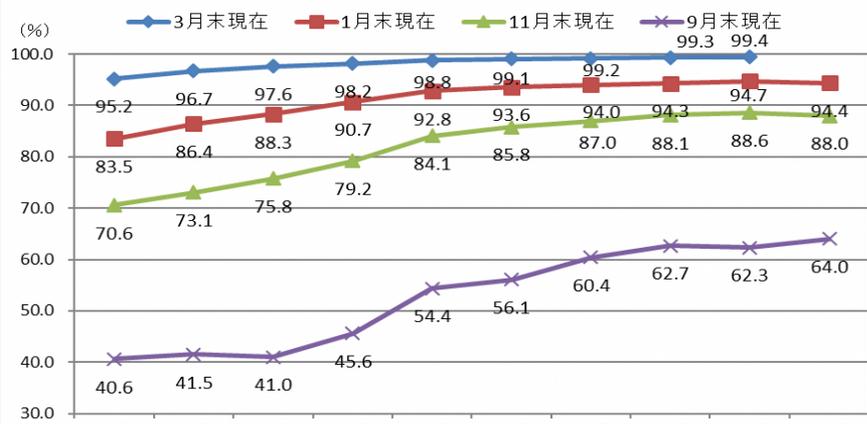
○全国の令和2年1月末時点の高校卒業者(令和2年3月卒業)就職内定率は94.4%であり、前年同時点と比べ▲0.3ポイントと低下した。

新規卒業者(高校)の就職内定率の推移<岐阜県>



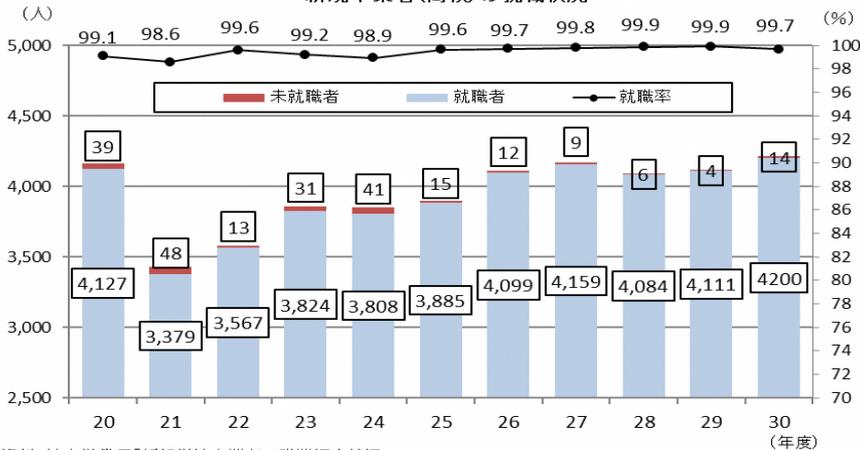
資料: 岐阜労働局「新規学校卒業者の職業紹介状況」

新規卒業者(高校)の就職内定率の推移<全国>



資料: 厚生労働省「高校・中学新卒者の求人・求職・内定状況(高校・中学新卒者)」

新規卒業者(高校)の就職状況



資料: 岐阜労働局「新規学校卒業者の職業紹介状況」

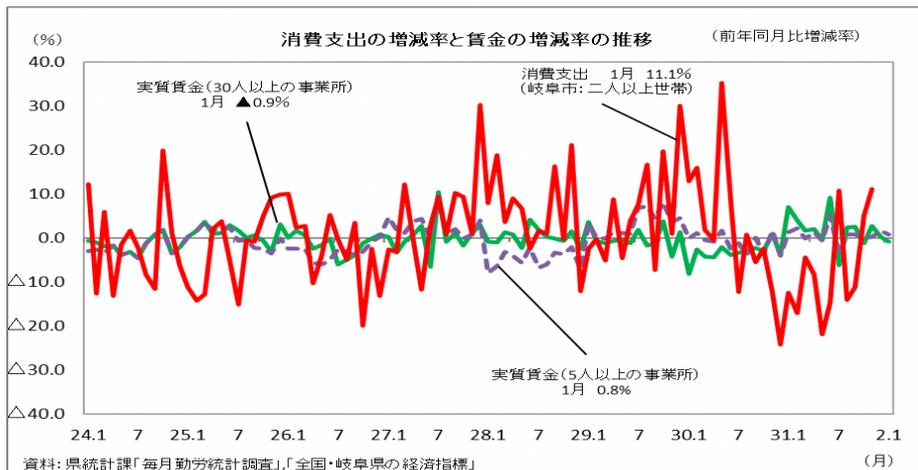
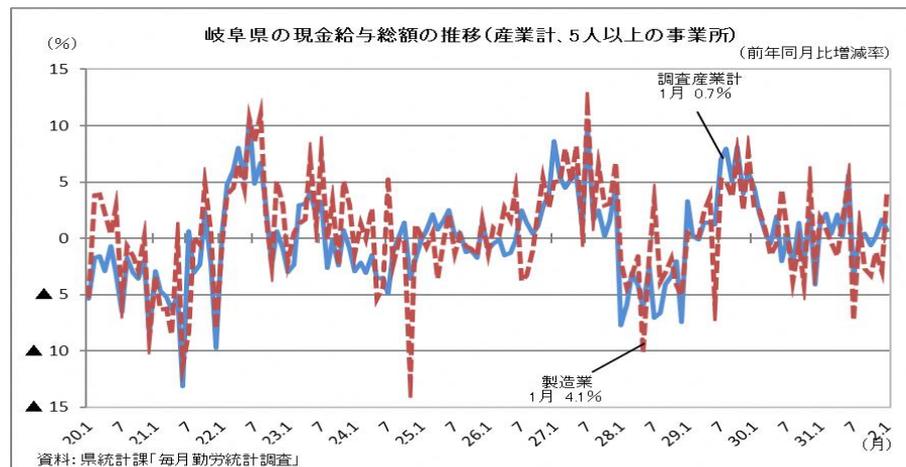
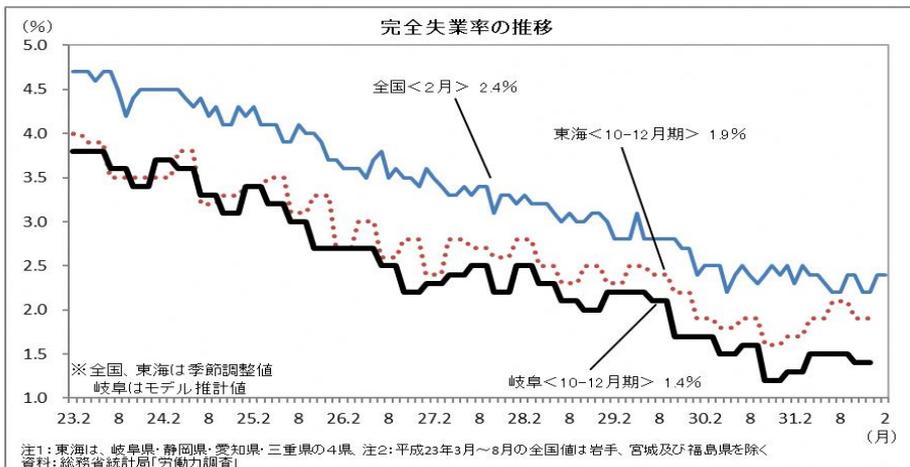
卒業者に占める就職希望者の割合(高校)※3月末時



資料: 岐阜労働局「新規学校卒業者の職業紹介状況」

雇 用(完全失業率等)

- 全国の2月の完全失業率は2.4%で前月と同水準。岐阜県の10-12月期の平均は1.4%で前期比▲0.1ポイントと減少。
- 1月の岐阜県現金給与総額は、全産業で前年同月比0.7%、製造業で同4.1%、と増加。
- 1月の実質賃金増減率は、5人以上の事業所は前年同月比0.8%増加、30人以上の事業所は同▲0.9%と減少。消費支出については同11.1%と2ヶ月連続で増加した。
- 1月の所定外労働時間数は前年同月比▲3.8%と減少した。



＜経済・雇用の現状（総括）＞

- 製造業は、鉱工業生産指数で金属製品が前月比上昇したものの、電気機械等、低下する産業が目立った。ヒアリングにおいては、新型コロナウイルスの感染拡大により、売上等に対して悪影響が出ているとの声が聞かれた。
- 地場産業は、鉱工業生産指数で窯業・土石と家具が上昇したものの、その他の産業で前月比で低下した。ヒアリングにおいては、消費税増税の影響による売上の減少に加え、新型コロナウイルスの感染拡大が重なり、今後の影響を懸念する声が聞かれた。
- 設備投資は、工作機械受注額について、国内向けは15ヶ月連続、海外向けは16ヶ月連続で前年同月を下回っている。ヒアリングにおいては、新型コロナウイルスの感染拡大による先行きの不透明感から設備投資計画を見直す企業がでている。
- 個人消費は、小売店の2月の販売額については、ドラッグストアやホームセンター等で前年同月比増加した。ヒアリングにおいては、買いため客の増加により客単価が伸びているものの今後の反動を懸念する声や、品切れ中のマスク等への問い合わせが多く売上につながらないという声が聞かれた。
- 観光は、新型コロナウイルスの影響により観光地、宿泊施設ともに前年同月を下回った。宿泊施設においてはインバウンドの激減により厳しい状況。ヒアリングにおいては、先が見えない現状から資金繰りも見通せないとの声が聞かれた。
- 企業の資金繰りは、金融機関からは、各種産業から融資の相談が増加傾向にあるとの声が聞かれた。
- 雇用面は、有効求人倍率等の関連指標は全国でも高水準に位置しており、依然として人手不足は慢性化した状態。一方、ヒアリングにおいては、新型コロナウイルスの感染拡大が企業の採用活動に支障をきたしているとの声が聞かれた。